

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語は、知識・技能では、全国平均を上回っている。しかし、話す・聞く・書く・読むなど思考・判断・表現力が身につけていない。数学では、基礎的な内容の定着ができておらず、既習事項を統合的・発展的に考える問題の正答率が特に低く特に、図形・関数領域の正答率が低い。

○意欲的に授業に取り組む生徒が多い。しかし、学習内容の定着につがっていない生徒がいるため、学力に差が出ている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○情報を正確に聞きとること、読み取ることが苦手な生徒が多い。授業でも、「読み解く力の育成」を重視し、授業改善していく必要がある。

○文章やグラフ、図から読み取った情報を整理し、自分の考えを言葉で相手に伝えたり、書いたりする活動を充実させることが課題である。

○学力の定着に差があるため、個別最適な学びの実践が課題である。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○急激に変化する社会において、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、生き抜くことのできる資質・能力の育成を図る。

○2030アジェンダへの意識を高めて、問題解決学習、探究学習、協働学習を通して、言語能力、情報活用力、創造力、実践力、コミュニケーション能力を育む。

○各教科・領域のカリキュラムマネジメントを行い、社会的事象に目を向けさせ、自分の考えを文章に書き表したり、発表したりする活動を重視し、言語活動の充実を図る。

○調べ学習・体験活動を通して、SDGsの視点で生命・自然・社会・文化・経済・産業の環境や平和、国際理解等に関する問題を自らの問題としてとらえさせ、改善策を練り、実践する力を育む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
○各教科等の授業において、「学習課題・目標の設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○授業では教科書を読む時間を十分に設定し、読んだ内容から考えたこと、学んだことを友達に伝えたり、書いたりし、主体的にoutputする活動を取り入れる。	○生徒が個々に課題を見つけ、探求的な学習を通して、自ら学び解決していく力を育成する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○SDGs教育を小中学校9年間の系統的な学習として取り入れる。SDGsの学習を探究的に行うことで、主体的・協働的に課題を発見し解決する力、論理的に説明する力、コミュニケーションを図りながら合意形成する力の育成を推進する。	○生徒一人一人の興味・関心に応じた探究テーマ、社会的事象と各教科の関連を意識させる。また、SDGsを各教科の学習や総合的な学習の時間に取り入れ、教科横断的な学習を推進する。	○授業内で、意見を共有する場面や、一人一人の生徒に適した課題を配布する場面で、一人一台端末を活用し、個別最適な学びを実現させる。また、ICTを活用し、視覚的に分かりやすい授業を展開する。